

名古屋大学日本法教育研究センター(モンゴル)



名古屋大学大学院法学研究科はモンゴルのような体制移行国に対し法整備支援・人材育成事業に取り組んできました。その中で、日本法教育研究センター（モンゴル）（以下、CJLモンゴル）はモンゴル国立大学法学部との長年にわたる協力関係に基づき、2006年9月に同校内に設立されました。日本語と日本法の教育を行い、優秀者を名古屋大学法学研究科をはじめとする日本の大学院へ留学生として送り出すほか、法学教育研究分野におけるモンゴルと日本の架け橋としての役割を果たしています。

- 学生数（2024.2現在）：41名（5年生：8名、4年生：9名、3年生：11名、2年生：4名、1年生：9名）
- 教員数：11名 日本人：特任講師2名、常勤講師1名、非常勤講師3名
モンゴル人：準常勤講師1名、非常勤講師4名
- 授業数：各学年 週当たり4コマ～9コマ（1コマは90分）
- 開講科目：日本語(初級～上級)・日本法・日本法準備(日本史・公民)・学年論文・研究計画 等

変わりつつある草原の国

モンゴルは、1990年に社会主義から民主化と市場経済化への道を歩み始めました。それに伴い、司法改革・土地私有化など多くの法的課題が生まれました。近年では、豊富な地下鉱物資源の輸出を背景に経済規模が拡大する一方、貧富の格差・汚職・環境破壊・首都への人口集中などが懸案となっています。

このような社会の変動期にリーダーとして活躍できる人材を、CJLモンゴルは育てていきたいと考えています。

教育機関として

CJLモンゴルの日本法コースは、モンゴル国立大学法学部比較法学科の正規コースとして位置付けられ、ここでの履修科目は同校の卒業単位として認定されます。

また、日本語教育の盛んなモンゴルで高い教育成果を挙げており、2023年は日本国大使館他共催のスピーチコンテスト、モンゴル日本青年交流支援センター主催のスピーチコンテストで優勝を収めました。

現在、名古屋大学大学院法学研究科博士課程に5名、修士課程に7名が留学中です。また、修了生6名がモンゴル国立大学で教壇に立っています。

研究拠点として

CJLモンゴルは、モンゴル国立大学、モンゴル国立法律研究所、モンゴル科学アカデミー哲学・社会学・法学研究所等の学術機関のほか、法務内務省、最高裁判所等の法実務機関の研究者や実務家との共同研究・学術交流の拠点であると同時に、日本とモンゴルの法情報の収集・発信の研究拠点としての役割を果たしています。さらに、専門分野の枠を越えて、名古屋大学を卒業したモンゴル人留学生のネットワークの拠点としても機能しています。



大学紹介 モンゴル国立大学は1942年に設立されたモンゴルで最も歴史のある国立大学であり、学生数約1万人を擁する最大の総合大学です。同大法学部は、モンゴルにある法学部では唯一の5年制を採っており、国内で最も充実した法学教育を行なっています。

センター所在地 Room 304, Building 3, School of Law, National University of Mongolia, Sukhbaatar district, United Nations street 17（現在は校舎建て替えのためモンゴル国立大学ウランバートル校に移転）

連絡先 cjl-mongolia@law.nagoya-u.ac.jp（担当：松井、八尾）

名古屋大学大学院法学研究科
名古屋大学法政国際教育協力研究センター（CALE）